

安登先生との思い出とお礼

赤羽 裕

亜細亜大学都市創造学部 教授

安登利幸教授が今年度末でご退職されるにあたり、思い出を振り返るとともに、感謝の気持ちをお伝えしたく、筆を執ってみました。

安登先生との出会いは、16年前に遡ります。当時、私は前職の銀行に勤めていましたが、セカンドキャリアも展望して本学の MBA コース、大学院アジア・国際経営戦略研究科（以下 AIBS という）への入学を考えていました。事前のオープンキャンパスでの見学をふまえて、2月の入試の面接でお会いしたのが最初だったと記憶しています。「穏やかそうな先生」だなというのが第一印象でした。

無事に社会人学生として2006年4月に入学。「研究指導」をご担当いただき、論文作成の指導を受けました。この年に開設された AIBS の入学同期生は約30名、うち社会人学生が私を含めて5名でした。他の4名は「経営戦略」のゼミに、私は1人で安登先生の「ファイナンス」のゼミに所属しました。同期の入学の中国人留学生が同じ安登ゼミに所属していましたが、社会人の私は1年コースであったため、週に1回のゼミは基本的には1対1の授業でした。私の研究テーマは、将来の可能性としてアジアのバスケット通貨建て債券を発行することの企業財務への影響と、かなりマニアックなものでしたが、安登先生には自由な研究をお認めいただきました。ご自身も銀行（日本政策投資銀行）のご出身であり、企業財務にも明るく、適切なアドバイスを頂戴しました。また、ワシントン駐在のご経験もあり、国際的な企業活動に関する知見をふまえたご指導もいただくことができました。当時、11月に行われていた AIBS の上海研修では、現地の日中の経済関連団体をご紹介いただき、面談に同行もいただきました。当該面談や研修における現地日系企業の方々からうかがったお話や質疑応答も、論文作成には非常に有用であり、たいへんありがたいものでした。その後、大学業界への転身を目指し、教員公募に応募した際には、

何度か推薦状をお願いしましたが、快く応じて頂いたことにも、あらためて感謝したいと思います。

1年間で無事に AIBS を修了した後も、AIBS が母体となり発足したアジア・国際経営戦略学会に参加し、そこでも安登先生とのお付き合いは続くこととなります。同学会は、上海をはじめ、タイやベトナムなどに学会メンバーで出向き、現地日系企業の工場見学やそうした企業のトップマネジメントを招いた講演会も開催していました。安登先生は、同学会の評議員として、講演会終了時のご挨拶やその後の懇親会の「中締め」でのご挨拶をたびたびなされていました。講演会終了時の挨拶では講演内容の要旨をふまえた有用なコメントを、「中締め」では思わず参加者が微笑むようなウィットに富んだお話をされていたことが印象的です。

こうした経験も経て、私は2016年4月、現在所属している本学都市創造学部創設時より勤務することとなりました。当時、AIBS の指導とともに経営学部所属されていた安登先生も、2018年から本学部への所属が決定していました。本学所属前から、私は AIBS で非常勤講師を務めていましたが、本学勤務開始後もそのまま AIBS でも科目を担当することとなりました。その後、安登先生の定年退職が近くなった時期に、それまで先生が AIBS でご担当されていた「企業ファイナンス」を引き継ぎ、担当することとなりました。指導教授の科目を引き継ぐことは感慨深く、また、ますます安登先生とのご縁を強く意識するようになったものです。

安登先生は、AIBS で研究指導と「企業ファイナンス」・「国際起業論」の講義をご担当されるとともに、研究科委員長、学務委員も歴任されました。現在、私自身も AIBS の教務運営に若干ながら携わることとなりましたが、折に触れてこれまでの経緯・経験をふまえたご指導、ご助言もいただき、たいへんありがたく感じています。

都市創造学部では、授業科目としては「ファイナンス論」と「PPP/PFIと都市開発」をご担当頂いていました。PPP/PFIについては、前職での経験とともに、大学に移られてからも、国土交通省、総務省および複数の地方自治体における有識者委員を務めるなど、現場の状況をよく把握されていらっしゃいます。そうした授業を受講できた学生達は、幸せであると感じます。

少し、プライベートなことにも触れさせていただきます。業務多忙な中でも、フルート演奏や俳句などご趣味も幅広く、また会話の中で教養の高さを感じることも度々でした。大学院で指導を受けた頃より、やり

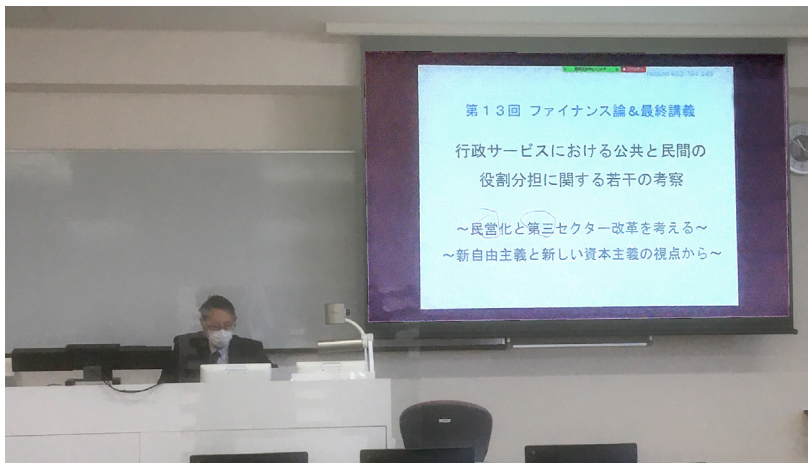
とりさせていただいている年賀状では、毎年、ご家族と一緒にの写真とともにその年の計画や抱負が記されています。さらに手書きで一言加えられているところに、安登先生の優しさ、温かさを年初にいつも感じているものです。

安登先生、永年の亜細亜大学、AIBS、本学部でのご指導、まことにありがとうございます。先生、ご家族が、ご健康で幸せに過ごされることをお祈りします。また、今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

(令和4年2月吉日)

2022年1月20日 最終講義

「行政サービスにおける公共と民間の役割分担に関する若干の考察
～民営化と第3セクター改革を考える～
～新自由主義と新しい資本主義の視点から～」



(本講義は、本紙掲載の安登先生の論文にもとづき行われました。)

感謝を込めて花束贈呈

